



## 校長室から

甘利 尚之

12月 9日(木) No.5

### 職員研修 ～上塩尻めぐり～

「我々職員が、もっと、この塩尻地域のことを知らないといけないんじゃないか」

去年は、コロナ禍、行うことのできなかつた塩尻小学校の職員研修ですが、研修係の発案に



より、「上塩尻めぐり」を実現させることができました。

最初に、「塩尻小 地域応援団」の「ふるさと学習」講師、S先生にお話をいただきながら、「ゆうすげの里」から、小岩井紬工房まで歩きました。「ゆうすげの里」はどのようにしてできたのか、といったお話から、上塩尻に見える石垣の成り立ち、森の植生、屋敷

跡、大変盛んだった相撲、学校の敷地内にある「なんじゃもんじゃの木」の「故郷」は…といったことまで、様々に教えていただきました。

「小岩井紬工房」では、Kさんから機織りの工程についての説明を聞いたり、機織りの体験をしたりしました。10cm四方程度のコースター作り、四苦八苦しながらなんとか完成させることができました。体験を通



し、繭からとられた糸が、「上田紬」として人が身に纏えるようになるまでには、どれ程の高度な、また熟練した「人の手業」が用いられているのか、その一端を知ることができたように感じました。

「歴史を知ること、未来を考えることだ」という言葉を聞いたことがあります。我々は、地域に根差した教育を進めることを通して、



「この塩尻の地やそこに住む人々に愛着を育む子どもたち」  
「当事者として、自分たちの力で地域を創り上げていこうとする子どもたち」

「地域に根ざした志の下、自己実現を図っていこうとする子どもたち」

を育てたいと願っています。今回の研修を通し、その第一歩としての「地域の歴史を知ること、地域の歴史に触れること」の大切さを再認識しました。今後、子どもたちが、温かな地域の方々から直接学ぶことのできる機会が多くなることを望んでいます。